



利根中央病院だより

第47号
2018年 春号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：<http://www.tonehoken.or.jp/>

当院の透析診療について



腎臓内科医長 岡部 智史

長い経過で腎臓の数値（腎機能）が悪化した状態が続いていることを、慢性腎不全と言い、慢性腎不全が進行すると、末期腎不全となります。末期腎不全になると、「腎臓の代わり」となる手段である腎代替療法が必要になります。当院では、日本で最も普及している腎代替療法である、血液透析を行っています。血液透析は、身体の外に血液を取り出し、血液中の老廃物や余分な水分を取り除いたあと、再び体内に戻す、という治療を行っています。この慢性腎不全に対する血液透析は、病状が落ち着いている患者さんに、週に3回・1回4～5時間で行うのが一般的です。

一方で、急激な経過で腎機能が悪化するのを、急性腎不全と言います。急性腎不全でも血液透析を行うことがありますが、血圧などの病状が落ち着いていないことも多く、通常の血液透析が行いにくいことも多くあります。このような場合は、持続的に緩徐に透析を行った方が、透析が比較的安定して行えやすくなります。この透析の方法のことを、持続的血液濾過透析（CHDF）と言います。CHDFは、病状が不安定な患者さんにゆっくり血液中の余分な水分や毒

素を取り除くという方法であるため、急性腎不全だけでなく、急性心不全や心筋梗塞などの水がたまる重篤な心疾患や、重症急性膵炎や敗血症などの自分の体を攻撃する物質を産生する疾患でも、良い適応となります。当院でも、2018年1月よりこのCHDFを施行できる装置を導入し、症例毎に応じて、少しずつ施行を開始しています。



CHDF 装置

産婦人科診療体制のご紹介

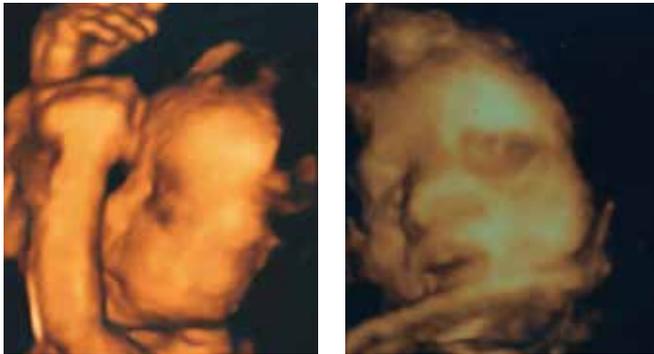


産婦人科医長 西出 麻美

沼田地域で安心してお産ができるよう、また、全ての女性が輝いていられるよう、産婦人科スタッフ一丸となって医療に取り組んでいます。

<産科>

2015年9月に新病院へ移転し、2016年は252件、2017年は301件の分娩がありました。妊婦健診では毎回4Dエコーを見ることができ、赤ちゃんの様子がパパにもわかりやすく人気です。



また、マタニティヨガや母親学級など、産前からお産のための準備をしていくプログラムも用意しています。当院の助産師が主体となって行うプログラムですので、安心してご参加していただき妊娠中の心配事も相談できます。

分娩室は2つあり、両室ともLDR(※1)となっています。個室で、スペースも十分ありますので、周囲に気兼ねなく、陣痛からパパやご家族みんなでママを支えていただけます。もちろん立ち会い出産も可能です。

産後のお部屋も個室ですので、安心して過ごしていただけます。お食事も毎日選べるスイーツがあり人気です。

当院は24時間緊急帝王切開に対応できる医師体制をとっています。必要に応じて小児科や内科の先生と協力して診療を行う、総合病院ならではの安心感もあります。助産師は18人在籍しており、そのうち8人がアドバンス助産師の資格を持っています。医師・助産師が協力して、ひとりひとりに寄り

添い、安心・安全なお産を目指しています。

※1 LDRは陣痛から出産、回復までを一つの部屋で過ごせる設備のお部屋です。



<婦人科>

2016年は198件、2017年は192件の手術を行いました。腹腔鏡手術や悪性腫瘍手術だけではなく、手術による子宮脱治療も行なっています。手術以外では、ホルモン治療や不妊治療なども行なっています。

「生理が多い」「痛みがある」「生理不順」「更年期障害なのか寝つきが悪い」「膣から何か触れる」「性行為痛がある」などなど、女性特有の悩みもあると思います。産婦人科は全ての女性のためにありますので、どんなお悩みでも気軽にご相談ください。



(前列左2番目より、西出医師、糸賀医師、三枝医師)

心臓リハビリテーションのご案内



理学療法士 狩野進之助

心臓リハビリテーション（心リハ）とは、医学的な評価、運動処方、冠危険因子の是正、教育及びカウンセリングからなる長期的で包括的なプログラムを指します。主な対象疾患は急性心筋梗塞、狭心症、大血管疾患、慢性心不全、末梢動脈閉塞性疾患です。

スムーズな社会復帰や疾患の再発および悪化を予防するためには、運動療法のほか、食事療法や禁煙を含む生活習慣の改善、さらには患者さん自身に病気に対する正しい知識を身につけていただくことが必要です。医師、理学/作業療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士などの専門医療職が関わって、患者さん一人ひとりの状態に応じたリハビリプログラムを提案、実施します。

当院では2018年1月より心リハを開始しました。多職種からなる心リハチームを立ち上げ、入院から外来まで包括的に関わる取り組みを行っています。入院中から開始する場合には歩行テストや運動負荷試験などを行い運動能力及び安全性を確認しま

す。退院後、または外来から参加される場合には運動処方に心肺運動負荷試験装置（CPX）を使用します。入院中は休日を除いて毎日行い、外来通院の場合は最大週3回まで参加していただけます。

心リハ参加期間は開始日より5ヶ月間ですが、リハビリが終了したのちも心リハで指導させていただいた生活習慣・運動習慣を維持していただく必要があります。

患者さんの生活の質の改善、健康寿命の延長を目指して多職種でお手伝いをさせていただきます。



心リハ設備



CPX



心リハの様子

虐待対応プログラムBEAMS Stage2 研修

3月5日に前橋赤十字病院小児科副部長の溝口史剛先生をお招きしてBEAMS研修を開催しました。BEAMSとは医療機関向けの子ども虐待対応プログラムで3つのステージで構成されています。今回のステージ2の研修ではトリアージの重要性や具体的な診断学など実践的な内容について学びました。研修で学んだことを活かし、虐待対応の体制が強化できるように努めていきたいと思えます。



臨床研修報告会を開催しました



群馬民医連に所属する初期および後期研修医13名が『私を成長させてくれた事例』をテーマに発表しました。

あわせて研修修了のセレモニーも行われ、初期研修医4名、後期研修医1名に記念品が贈呈されました。

きらめき トピックス

2018年度 入協式・新入職員研修

医科研修医6名・歯科研修医3名を含む44名が当生協に入職しました。

4月2日・3日と2日間にわたる新入職員研修で、職務・業務を遂行する上で必要な知識やスキル、医療安全・院内感染、接遇などの基本を習得しました。

2018年度の入職者で構成された同期会、「18の会」も結成され横の繋がりを大切にしながら、勇往邁進されることが期待されます。



「病児保育室くるみ」を開設しました

沼田市子育て支援事業の委託を受けて、地域で働くパパママの子育てと就労の両立を支援するため、4月2日に病院敷地内に病児保育室をオープンしました。

専任の保育士と看護師がお預かりします。病気の子どもを預ける場所の一つとしてご利用ください。

沼田市在住または在勤の保護者が対象です。利用の際は沼田市子ども課へ事前登録してください。Webでの予約もできます。詳しくはホームページをご覧ください。

